

令和6年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立柳沢小学校

全国学力学習状況調査（小学校第6学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	(書くこと)「たてわり遊び」に関する高山さんの文章の空欄に、条件に合わせた内容を書く。	57.70%	「たてわり遊び」の良さを認識することはできている。 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることは出来ている。 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができている。	無回答が23.1%で最終問題であることから、時間切れも考えられる。誤答(12.8%)の特徴として、資料から読書の意義を捉えることができなかったか、資料ではなく自分の読書経験を基に考えた児童がいたと考えられる。②は、無解答率が問題2二は0に対し、最後から2番目の問題は21.8%であることから、時間切れも考えられる。誤答(39.3%、10.2%)の特徴は、東京都や全国の傾向と異なり、情報源から「必要な言葉や文」を取り上げて書くことはできているが、「考え」や「感想」を述べることができていなかった。
	(読むこと)【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く。	64.10%		
	(情報の扱い方に関する事項)文章を書くために用意した【メモ】において、記された言葉同士の関係を捉えることができるかを問う。	94.90%		
算数	(図形)作成途中の直方体の見取り図について、正しいものを選択する。円柱の展開図について、側適切なものを選択する。	96.2% 79.5%	直方体の面と面、辺と辺の位置関係に着目し、辺ウカが辺アオに平行で長さが等しいことを理解している児童がほとんどである。児童質問調査[54]「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の「当てはまる」が全国比+9ポイントと高く、否定的に回答したグループは全国比△5ポイントと少ないことが正答率の高さに関連していると考えられる(「全国学力・学習状況調査の結果」クロス集計(分析)参考)。	全国傾向と同様、図形や単位量あたりの大きさについて、深い理解を伴う知識の習得やその活用である。円周の長さが直方体の横の長さになることを捉え、円周と直径、円周率の関係について理解していると考えられる一方、円周の長さを直径の長さの何倍になるか見通しをもてていない児童がいる。特に「円」や立体図形に関する基礎的・基本的な知識・技能の定着、図形を構成する要素を見出し、活用できるように指導する必要がある。
	(図形)直径22cmの球がぴったり入る立方体の体積を求める式を書く。	50.00%		
	(変化と関係)自転車で、家から郵便ポストまで分速200m、郵便ポストから図書館まで分速200mで走った場合において、家から図書館までの分速は何mになるかを求める。	73.10%		
	(データの活用)C市で桜が開花した月が3月だった回数と4月だった回数を年代(10年間)ごとに表した折れ線グラフを読み取り、ちがいが最も大きい年代がいつで、そのちがいが何回かについて記述する。	61.50%		